



共生の時代

'07
12月

●発行:グリーンコープ共同体育理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



1953年、鳥取県境港市で生まれ、小5より米子市に在住。国立の女子大学家政学部卒業。長男は結婚して独立。現在、夫、二男と暮らす。グリーンコープ生協とつとり組合員

プロフィール

点訳・朗読ボランティアグループ
わらび会会長

遠藤 佳子 さん

視覚障がい者の終生の友でありたい

「この世に生を受けてからずっと恵まれた環境にあつた。地元の高校を卒業すると東京の女子大にすすみ、卒業後は、いわゆる「花嫁修業」をし、結婚して専業主婦となった。

だが、こうした満ち足りた状況には物心ついてからどこか不感がつきまといつてきたのか、東京での学生時代、遠藤さんは点字を知り、惹かれた。本が大好きで子ども時代から手元にはいつも本がある生活。その読書の楽しみを目が不自由な人たちにも届けられたらと思った。しかし、実際に点字を習うことはなく、そのままになっていた。

ところが、偶然にも結婚後の新居の近くに点字図書館があることを知り、点字を習いはじめた。これがきっかけとなって米子の「点訳・朗読ボランティアグループ わらび会」に入会。

それから子育て期4～5年の中断はあるものの、視覚障がい者のためのボランティア活動をずっと続けてきた。7年前からは会長を務めている。

「コツコツ」というイメージがある点訳だが、IT時代の到来でその風景も変わり、パソコンで点訳ができるようになった。視覚障がい者向けの機器の開発もすすみ、利用も広がっている。また、点訳から音訳に比重も移り、会の活動も変化している。誘導介助の依頼が増え、その要望も多種多様。研修会や料理教室、カラオケ大会の練習・大会本番、コンサートなどのカルチャー系から、野鳥の声を聞くボードヒアリングやグラウンドゴルフなどのスポーツ系、旅行、買い物と幅広い。「例えばカラオケの練習では、演歌はよく分からなくても、一緒に楽しむというスタンスでいきま

むというスタンスでいきま

す。実際とても楽しい。それから、自分では絶対選ばない本の点訳をすると別の世界が広がるし、料理教室では新しいメニューを覚えられたりします。とても新鮮な感覚です」。責任は伴うものの、まるで友だちのような関係を築いている。その関係に遠藤さん自身が助けられた。

数年前からのひどい更年期障害。「会にかかわっていなかつたら、うつうつとして家に閉じこもっていたかもしれないですね」。再び元気を取り戻せたのは、「遠藤さん、お願いしまーす!」という温かな「遠藤さんコール」だった。その信頼に何としても応えたいと、気力を振り絞って出かけていく。

「できる時に、できることを」。ここまできました。30年間一灯を掲げ続けてきた。その笑顔が清々しい。

ネグロスクリスマスキャンペーン



クリスマスキャンパにご協力を



6面に関連記事

Contents

地域組合員総会の実現に向けて 組合員一人ひとりがグリーンコープをつくる	2
うちのメーカー・うちの生産者 ⑧ 矢作洋酒株式会社 甲斐国一宮無添加ワイン	3
安心・安全な食べものと生命に寄り添う グリーンコープ誕生20周年!!	4・5
グローバル化で苦しむアジアの農民との協同に向けて ネグロスから広がる支援・連帯の輪	6
グリーンコープ生協おおいた発 ありがとう20周年 未来へつなごうグリーンコープ	7

今年も残りわずか。新年を気持ちよく迎えるためにも、わが家の大掃除開始! キッチン回りの普段なかなか手の届かない所を、換気扇、冷蔵庫の後ろ、流し台のunder etc. 結構時間がかかるもの。それでも夫との共同作業です。お陰でみるみるうちに新品同様。きれいになったキッチン。夫も「よし! これで料理を楽しく作れるかな」とひと言。「えっ? 料理作る気なのかしら」。真実はさておき、いつも

送 信

は2人だけの食卓も、年末には子どもたちが帰省しガヤガヤと賑やかな食卓になる。もちろん食卓を彩るのはグリーンコープの食材たちだ。グリーンコープがない地域に住んでいる子どもたち曰く、「グリーンコープのものは他のものとはやっぱり違うね」。

家族の健康は食卓からだと常々思う。そしてグリーンコープと出会えてほんとうにラッキーだったと思う。

グリーンコープ生協くまもと理事長
中島 明美

組合員一人ひとりが グリーンコープをつくる



地域組合員が地域のグリーンコープの活動・運動・事業の内容について、その決定にも参画する場

**地域組合員総会は
組合員が参加して決定する場！
意思表示の場！
グリーンコープを体感する場！**



組合員やワークスが主人公となって登場する場



グリーンコープに集う地域のさまざまな主体(組合員・ワークス・生産者・福祉活動組合員基金助成団体など)が出会い、交流する場



より多くの地域組合員が参加しやすく楽しい場

グリーンコープの活動・運動・事業を伝える場であり、参加者が実感する場、組合員が自らの中のグリーンコープを豊かに育む場



…地域組合員総会の実現に向けて…

グリーンコープ連帯のめざす方向性として登場したのが、グリーンコープ共同体(以下、共同体)です。共同体の活動方針の一つに掲げられているのが地域組合員総会です。グリーンコープがグリーンコープらしくあるために必要不可欠な取り組みとして、今後共同体の中で深められていくこととなります。そのさきがけとしてすでに検討されているグリーンコープ生協ふくおかでの地域組合員総会の意義、目的を紹介します。

グリーンコープはこれまでグリーンコープの主体は組合員であるという「組合員主権」を大切にしてきました。組合員一人ひとりが主役であり、そこに集う人と人の結びつきによってつくられてきたのがグリーンコープの特長だと言えます。

「地域組合員総会」を開催していく意義・目的

グリーンコープの活動・運動・事業を検討・決定・実現していくプロセスに地域組合員がかかわっていく仕組みが共同体がめざしている「地域組合員総会」です。

これまでも各生協では組合員のつどいや班会、班会レポートをとおして地域組合員にたいへい情報やコミュニケーションしてきました。また各支部や地域(ブロック)ごとに支部大会や総代懇談会などを充実させてきました。それらは任意のものであり、もっと多くの組合員の声を反映させ

ていく仕組みが必要でした。

組合員が真の主人公として登場し、グリーンコープがより地域に根ざしていくために「地域組合員総会」は議決を伴う「総会」として位置付けられています。そうすることで多くの組合員がグリーンコープの活動・運動・事業を検討・決定・実現していくことになり、それは組合員活動の深化につながると思えられています。

一方で、活動・運動・事業の検討に多くの組合員がかかわること、そのようなプロセスを経て地域組合員総会を成立させることは大変さを伴うことが予想されます。また、単なる数集めの形式的なものに終わらないかという不安もあります。しかし、その大変さや不安も一つの課題としてとらえ、まずは「地域組合員総会」を形として実現することをめざします。さらにそれを貫き、内実を築いていくという道を進んでいくとしています。組合員主権を貫くグリーンコープのこのような姿勢は多くの組合員や地域に支持されるはずだと

場としていく。
③組合員やワークスが主人公となって登場する場としていく。
④グリーンコープに集う地域の中のさまざまな主体(組合員・ワークス・生産者・福祉活動組合員基金助成団体など)が出会い、交流する場としていく。
⑤それらをおしてグリーンコープの運動・事業を伝える場であり、参加者が実感する場としていく。
⑥組合員が自らの中のグリーンコープを豊かに育む場としていく。

ふくおかでスタートした地域組合員総会の具体化

ふくおかでは地域組合員総会に向け、具体的な検討が2007年秋の組合員のつどいを蹴り出しにスタートしました。そこで地域組合員総会が「組合員が参加して決定する場」、「組合員が自らの意思表示をする場」、「グリーンコープをもっと体感できる場」であることなど、運営に参加する重要性が呼びかけられました。さらに、2008年春のつどいに代えてふくおかの81カ所で地域組合員総会が開催されることになりました。主催を地区委員会としたことは、参加する組合員にとって身近なものとなり、地区委員会・お店委員会にとってはその年のまとめを行うことになりました。また、ワークスやグリーンコープのメーカー、生産者などにも参加を呼びかけて地域で共に活動している主体が出会う機会にもなります。そのための準備として2月より組合員全員に地域組合員総会の案内と

組合員が検討・決定・実現していく仕組みの深化

グリーンコープの活動・運動・事業の決定に地域組合員がかかわることは組合員主権の尊重につながります。それらができる限り地域組合員に根ざしたものに

なっていくための第一歩となる地域組合員総会。その根底にあるのはグリーンコープがグリーンコープらしくあるための人と人との関係性の構築の追求に他なりません。グリーンコープはこれからも生活協同組合として、生協を組合員のものとすることを根本に据え、生協を地域・社会・世界へと開かれたものとしてすすんでいきます。

組合員から選ばれた地域総代は4つの地域(ブロック)ごとに開催予定の地域総代会に出席します
地域総代会で、単協総代会に出席する総代を選出します





白ワインの原料になる甲州種が実る。矢作洋酒では葡萄畑を「ワイン畑」と呼ぶ

甲州で作る白ワインは皮ごと搾るので新酒でも少しずつピンク色に変っていきます。ワインが生きている証拠です



向山洋仁社長と喜代子さん夫妻

その後、一般では当たり前前に使用される、発酵を止めた酸化をコントロールする

その後、一般では当たり前前に使用される、発酵を止めた酸化をコントロールする

矢作洋酒が本格的にワインを作るようになったのは大正時代。いち早く醸造免許を取得し自家農園で採れた葡萄を原料にワインを作った。30年程前に消費者グループとの交流の中で化学肥料や農薬漬けの葡萄作りに問題意識を持つようになった。消費者だけでなく栽培する人にとっても負担の多い農薬散布をいかに減らしていくか、取り組みをはじめた。

酸化防止剤(亜硫酸塩)の無添加にチャレンジした。時の経過と共に風味や色合いが静かに変化するワイン作りをめざしたいと考え、あえて「余計なものはいらない」ことにこだわった。

酸化防止剤(亜硫酸塩)の無添加にチャレンジした。時の経過と共に風味や色合いが静かに変化するワイン作りをめざしたいと考え、あえて「余計なものはいらない」ことにこだわった。

山梨は生食用葡萄の生産量も多いが、巨峰、ピオーネ、甲斐路など人気の生食用種は甘みの追求のために栽培に手間がかかる。しかも現在市場では高く取り引きされている品種も普及すると栽培量が増え価格が暴落することがあるというリスクを常に抱えている。一方、ワイン用の国産種である甲州やベリーAはこの地に適した種類であるため強健で、生食用に比べると栽培の手間は少なく、広い園地を少人数でもかなうことも可能だ。当然生産者の収入



古い農家の蔵。ここで葡萄がワインに生まれ変わる

矢作洋酒。国産ワインを片手にゆっくり食事を楽しみたい人のために、これからのワインを作り続けていく。

山梨は生食用葡萄の生産量も多いが、巨峰、ピオーネ、甲斐路など人気の生食用種は甘みの追求のために栽培に手間がかかる。しかも現在市場では高く取り引きされている品種も普及すると栽培量が増え価格が暴落することがあるというリスクを常に抱えている。一方、ワイン用の国産種である甲州やベリーAはこの地に適した種類であるため強健で、生食用に比べると栽培の手間は少なく、広い園地を少人数でもかなうことも可能だ。当然生産者の収入

山梨の農業の未来へ思は、山梨の農業の未来へ思

山梨のワイン作りは、山梨で採れる葡萄の特性に合わせている。くせのない素直な味の甲州種は白ワインに、コクのあるベリーA種は赤ワインに、それぞれの特長を生かしたワインとなっている。ロゼは2種をブレンドしている。矢作洋酒のロゼは赤の比率が他より多い。これらはワイン用葡萄から作る海外ワインのように時間をかけて熟成を待つのではなく、フルーティなまま新酒で飲むのに向いている。日本の葡萄は日本人の味覚に合い、しかも日本料理の繊細さを邪魔しない。経験と技術に裏打ちされた誇りを胸にワインを作る矢作洋酒。国産ワインを片手にゆっくり食事を楽しみたい人のために、これからのワインを作り続けていく。



甲斐国一宮 無添加ワイン

うちのメーカー

80

山梨県笛吹市 矢作洋酒(株)

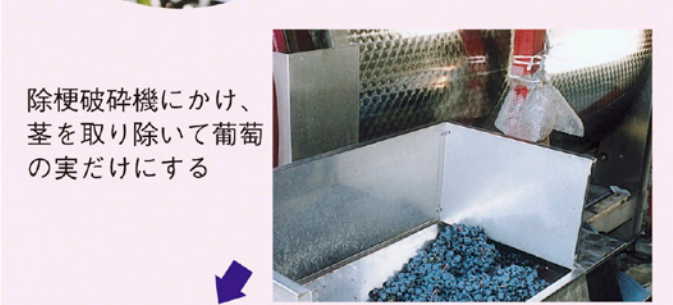
うちの生産者

特別な日をお祝いしたり、毎日の食卓の彩として、日本におけるワインの需要は増えている。グリーンコープで人気があるのは国産無添加ワイン。中でも長く組合員に親しまれている「甲斐国一宮無添加ワイン」のメーカーである矢作洋酒(株)を訪ね、ワイン作りのこだわりを聞いた。

甲斐国一宮無添加ワインのできるまで



ベリーA種の収穫の様子



除梗破碎機にかけ、茎を取り除いて葡萄の実だけにする



実だけをタンクで2週間発酵させる。葡萄のエキスやミネラルが十分に溶け出すように少しずつ回転する特殊なタンク



助剤を一切使用しないで、フィルターでろ過、その後びん詰めしてできあがり。新酒で召し上がれ!



白ワイン(甲州種) ロゼ(甲州種とベリーA種を合わせてつくる) 赤ワイン(ベリーA種) ※ギフト用

山梨県甲府盆地は国産ワイン発祥の地として有名どころだ。高い山々に囲まれた谷間にたくさの葡萄畑が広がっている。気温の寒暖差の大きい気候風土が葡萄の栽培に適していることから、明治時代から現在までワイン普及に伴って次第に規模を広げていった。

山梨は生食用葡萄の生産量も多いが、巨峰、ピオーネ、甲斐路など人気の生食用種は甘みの追求のために栽培に手間がかかる。しかも現在市場では高く取り引きされている品種も普及すると栽培量が増え価格が暴落することがあるというリスクを常に抱えている。一方、ワイン用の国産種である甲州やベリーAはこの地に適した種類であるため強健で、生食用に比べると栽培の手間は少なく、広い園地を少人数でもかなうことも可能だ。当然生産者の収入

早くから夕方まで続く。子どもたちも親と一緒に葡萄畑で一日を過ごすそう。手で刈った草が土を覆い、ふわふわになった葡萄棚の下は格好の遊び場になる。

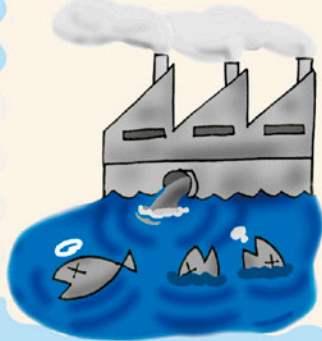
山梨は生食用葡萄の生産量も多いが、巨峰、ピオーネ、甲斐路など人気の生食用種は甘みの追求のために栽培に手間がかかる。しかも現在市場では高く取り引きされている品種も普及すると栽培量が増え価格が暴落することがあるというリスクを常に抱えている。一方、ワイン用の国産種である甲州やベリーAはこの地に適した種類であるため強健で、生食用に比べると栽培の手間は少なく、広い園地を少人数でもかなうことも可能だ。当然生産者の収入

山梨のワイン作りは、山梨で採れる葡萄の特性に合わせている。くせのない素直な味の甲州種は白ワインに、コクのあるベリーA種は赤ワインに、それぞれの特長を生かしたワインとなっている。ロゼは2種をブレンドしている。矢作洋酒のロゼは赤の比率が他より多い。これらはワイン用葡萄から作る海外ワインのように時間をかけて熟成を待つのではなく、フルーティなまま新酒で飲むのに向いている。日本の葡萄は日本人の味覚に合い、しかも日本料理の繊細さを邪魔しない。経験と技術に裏打ちされた誇りを胸にワインを作る矢作洋酒。国産ワインを片手にゆっくり食事を楽しみたい人のために、これからのワインを作り続けていく。

日本のワインには日本の葡萄が合う

地域生協の誕生

1970年前後、市民を母体とする「班共同購入」型地域生協が全国各地に次々と誕生しました。その背景には各種食品添加物の氾濫、水俣病に代表される公害、森永ヒ素ミルク事件、カネミ油症に代表される食品公害などの社会的事件がありました。



そのような中、市民を母体とするグリーンコープの前身の地域生協は本能的に「安心・安全な食べもの」だけでなく、食べものが生産される「環境」そのものの保全を強く求めていきました。

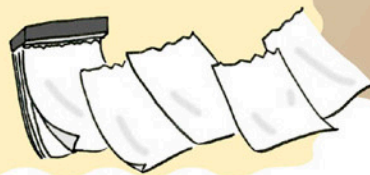
1988年3月、九州・山口の地域生協が、次の時代を見据え、大きく連帯していくために一つに団結したのがグリーンコープのはじまりです。グリーンコープを組織する地域生協の大きな共通点は「せつけん派」、言い換えれば「生命に寄り添う」生協であるということでした。今から20年前、グリーンコープはめざす連帯をカタチにするために、「四つの共生（人と自然・人と人・女と男・南と北）」という理念と「みどりの地球をみどりのままで未来の子どもたちに手渡したい」というスローガンを掲げ、途方もなく困難な道のりを歩み出しました。あれから20年、その歴史を辿ってみます。

いのちのりと生命に寄り添う 誕生20周年!!



産みの苦しみ

グリーンコープがほんとうに一つになるには、長い年月がかかりました。グリーンコープ連合に集った多くの生協は、経営的な困難や異なる「生い立ち」を抱えていました。大きくは共生社（北九州市と熊本を拠点）とちくれん（福岡市が中心）という2つの異なる生協連合体が一つになる道のりに大変さが伴いました。商品や運動への考え方やこだわり、表現する言葉が違っていたことから、相互に理解しあうのに長い時間を必要としました。また、本来は会員生協ごとに持っていた商品の仕入れ・開発・企画などの機能をグリーンコープ連合に集約されたことで、会員生協の権限を奪う形になってしまいました。



1994年6月グリーンコープ ふくおか連合の誕生による 「連帯の模索」のはじまり

本来なら会員生協にあるべき機能が集約されたグリーンコープ連合から、その権限を会員生協に戻す取り組みがはじまりました。福岡県内にちくれんと共生社が合体した「グリーンコープふくおか連合」が誕生したことで、グリーンコープの一体化が一気にすすみました。

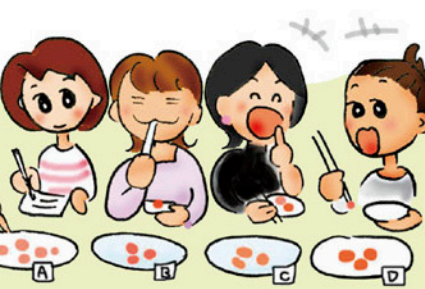
結集の力でさまざまな事業を展開

グリーンコープ福祉連帯基金の誕生、グリーンコープの食べもの運動の象徴であるびん牛乳の開発をはじめ、さまざまな商品が開発されました。安心・安全な食べものを生み出すために、その背景にある「環境」や「食の問題」である環境ホルモン、BSE、GM（遺伝子組み換え）などの問題にも積極的に取り組み、その成果を商品に反映させています。食の安全のために商品生産・製造認証システムもつくり上げました。また、ネグロスバナナ、マスコバド糖、ゲランドの塩、エコシュリンプなどの民衆交易で、世界各地との連帯もすすんでいます。



会員生協による商品開発・ 商品リニューアル

グリーンコープ連合に集約されてきた商品の開発や企画などによって多くのこだわりの商品を生み出すことができました。それは確実に「グリーンコープ」安心・安全ブランドとして信頼を得るようになっていきました。1997年頃から、グリーンコープ連合の権限を限定し、これまででは連合に集中してきたさまざまな決定のしくみを、できる限り会員生協に戻していく試みがはじまりました。そうして「経済効



率優先の商品と生命を

せっけん派生協の形成

その頃、全国の生協を取りまとめる日本生協連とそこに統括される各生協は「組合員のニーズがある限り合成洗剤も取り扱う」という方針を出しました。一方、これに反対し「せっけんを供給し、合成洗剤は取り扱わない」ことを選んだ地域生協も全国にたくさんありました。これらの「せっけん派」生協が、その後「グリーンコープ」を形成しました。



組合員活動としての「班共同購入」

班共同購入型地域生協の特徴は、注文書の回覧・集計・集金などを、組合員が主体的な活動で支えていることでした。

また班共同購入では商品の配達の時、班を構成する組合員同士の交流があり、さまざまな情報交換が行われていました。



近代化との闘い

1980年初頭、生協の事業にコンピュータを導入しようという動きが大きくなってきました。それは、これまでせっけん派生協が大切にしてきた組合員の主体的な活動を否定するものであったため、多くのせっけん派生協は「近代化反対」の道を選びました。



安心・安全な食べもの

グリーンコープ

団結するせっけん派生協

しかし、「近代化反対」を選んだせっけん派生協は経営的に次第に追い詰められ、残された道は団結していくことでした。小さな規模の生協が連帯によって大きな力を獲得し、事業の近代化を成し遂げようということです。それがグリーンコープの誕生につながりました。



1988年3月

グリーンコープ誕生

九州・山口に展開していたせっけん派生協は、グリーンコープとして連帯していく道のりを歩み出しました。まず、商品の仕入れ・開発・企画機能をグリーンコープ連合に統合しました。続いてコンピュータシステムと物流システムの統一・開発に着手しました。(1991年10月に情報・物流システムを統合)

グリーンコープ共同体へ!

それぞれの持つ「ヒト、モノ、ノウハウ、財源、知恵」を共有財産として有効に使い、もつともつと力をつけていきます。その力を地域と地域組合員に役立てていきます。



大阪から鹿児島までの14の会員生協とグリーンコープ連合が同じ位置に立つて共同体を形成すること―それはグリーンコープが10年後20年後の未来を生き抜いていくための大きな選択です。

そして「会員生協主体へ」の流れをつくり、2002年から商品開発の決定のしくみを会員生協に戻す取り組みが実態化されていきました。その一つとして商品の開発やリニューアルが会員生協主体ですすめられるようになり、多くの新しい商品が誕生しました。

「率優分の商品を生命を育む食べものに戻す」運動へと踏み出したのです。



東ティモール



インドネシア

エコシュリンプ生産農家の女性たちも他の国の女性たちとの交流をはじめようとしている。

20余年前、世界的な砂糖価格の暴落で「飢餓の島」となったネグロス島への緊急支援に立ち上がったのは日本ネグロス・キャンペーン委員会(以下JCNCC)。グリーンコープもその設立に積極的にかかり、その後の取り組みにも呼応してきました。JCNCCが中心となり築いてきた20年の連帯は、ネグロスを越え、大きく広がろうとしています。

出生率が高いので子どもの数は多い。しかし山岳地域に住む子どもたちは学校に行けない。親は子どもを学校へ行かせたいと願っている



北ルソン

ルソン島の山奥に住む先住民。バラゴンバナナはもちろん、みかんやコーヒー、豚、野菜などを協同組合連合をつくって、市場に流通させたい



ネグロスから広がる支援・連帯の輪

グローバリゼーションで苦しむアジアの農民との協同に向けて

「15万人の子どもの命が飢餓で死にかけている」「救いの手を」。国連ユニセフからの呼びかけに世界中が動き出した。日本でも生協や市民団体が中心となり、JCNCCを立ち上げ、緊急支援に取り組みました。

ネグロスの砂糖きびプランテーションは大土地所有制によって支配されており、それによって多くの島民が貧困と抑圧に苦しんできました。その中で世界的な砂糖価格の暴落。そこで働く砂糖きび労働者は一気に飢餓に襲われる事態となっていました。グリー

ンコープは現地のようすを確かめようと組合員の代表団をネグロスへ送り出しました。現地を訪れた組合員はあまりにも悲惨な現状に言葉をなくし、子どもを持つ母親として、やり場のない憤りと悲しみを抱え帰国しました。その時の衝撃がネグロスとの連帯を生み出す原動力となったのです。

支援から連帯へ

砂糖きび労働者への緊急支援は1年で終わるはずでした。しかし、そこから見えてきたことがあります。それはネグロスの飢餓

はつくり出されたものであること、その根本的な問題に日本などの裕福な国の経済活動が関係しているということでした。北による経済搾取という問題と向きあい、「ほんとうの支援とは?」「ネグロスの真の自立とは?」を問い続けてきました。この20年、私たちは私たちにできることに取り組みながら、ネグロスを支え、連帯関係を築いてきました。

ネグロスを越える

「援助ではなく自立のための経済づくり」をめざし

た取り組みによって、マスコバド糖やバラゴンバナナの民衆交易が生まれまし。さまざまな困難を克服し、今では国際的な評価を得るまでになりました。同時にネグロスの中では有機農業を軸とした地域づくりがはじまりました。その代表的な構想がPAP21(21世紀のための民衆農業創造計画)でした。「奪われた自給、循環」や「人間的な暮らし」を取り戻す道のりへと踏み出したのです。PAP21はネグロスの人々が主体となって展開されました。多くの失敗もありましたが、ネグロスに画期的な



ネグロス

ネグロスの自立への道のりに大切な力となったのは女性たちの変化だった。女性の自立が野菜自営農家を登場させ、地域づくりが大きくすすんだ

希望をこぼす

東ティモールの歴史は、ネグロスによく似ています。16世紀に外国からの占領を受けたこと、単一作物としてコーヒーが持ち込まれたこと、第二次世界大戦で日本軍の侵攻を受けたことなど。今、地域の人はコーヒーに頼らない生活をつくり出したい、子どもたちを学校に通わせたい、そして地域共同体をつくり暮らしを豊かにしていきたい、という夢を抱いています。

また、日本へ輸出するバラゴンバナナの産地として組織化されてきた北ルソンの山岳地域では度重なる台風と病害でバナナが壊滅状態となりました。バナナだけに頼らない地域づくりしかも「地産地消」をめざしています。

インドネシアではエコシュリンプの生産に閉じ、いくつもの挫折を繰り返したのち、今では水環境を考えたせっけん運動やマングローブ植林活動などへと取り組みを進化させています。そこで生きる女性たちが自立するための支援をしていきます。

ネグロスとの連帯の取り組みは、子どもたちの笑顔をつくり、地域に閉ざされた女性たちを解放しました。結果多くの民衆が夢を抱き自立への道をつくり出せるまでになりました。そこにはこれまで築いてきた確かな信頼関係があります。それを礎に、ネグロスを越え、より広いアジアの人々との連帯へと飛躍していくことになりました。

ネグロスからアジアへ広がる

今までの社会・暮らし

- N eocolonialism=新植民地主義
- E xploitation=搾取
- G lobalization=世界市場化・均質化
- R efugee=難民
- O ut of work=失業
- S tarvation=飢え(死の季節)

今までは異なる社会・暮らしを創りだす

- N etworking=小さくてもつながることで
- E mpowerment=新しい社会実現の主体になる
- G rass-roots=草の根の民主主義・民衆交流
- R ural-urban=村と町が、北と南が結びつく
- O rganic farming=有機農業
- S elf-sufficiency=自給自足→地産地消

成果をもたらしました。中でも際立って変化したのが女性の登壇です。ネグロスの社会状況下で閉ざされた中にいた女性たちが立ち上がり自立してきたことが、家族の絆をつくり、地域おこしへとつながりました。

このような20余年にわたるネグロスへの支援・連帯、そこに育まれたネグロスの自立への芽生えは少しずつ確かなものになっていきます。そして今、ネグロスが実践してきた自立への挑戦が、アジアの



未来へつなごう グリーンコープ



続々と詰めかける来場者

まつりのはじまりを告げるのは、地元の愛好グループによる勇ましい「陣屋太鼓」。続いて萱嶋理事長の開会の挨拶がありました。その後ステージでは、理事会メンバーによる「環境」をテーマにした創作劇や沖縄県出身の大学生による太鼓と踊りの「エイサー」、組合員・職員によるギター演奏等々が披露されました。抽選会では当選者の名前が呼ばれるたびに歓声が上がっていました。

まつり開催にあたっては、37納入業者・6生産者団体・20の地域の活動団体の協力がありました。出店の数も85店にもなり、どこも長蛇の列でした。安心・安全でおいしい食べものの出店がたくさんあり、グリーンコープの食べ物の運動が表現されていました。中でもびん牛乳の試飲や産直たまごの目玉焼きの試食は大人気、小さな子どもたちの笑顔がそのおいしさを物語っていました。



びん牛乳おいしいね!



おかあさんごみのすて方、なりましたよ!

子どもと一緒に環境学習。これこそグリーンコープの子育て!

また、「環境」というテーマでは、「マイバッグ」「マイはし」「マイ皿」持参を呼びかけ、多くの来場者が協力していました。「ごみゼロをめざしたまつり」はしっかりと参加者にアピールできたようです。どうしても出るごみもきちんと処理されており、子どもたちも親に教わりながら上手にごみの分別をしていました。まつりを盛り上げるために県や市・各メディアへの後援依頼、地域の活動団体や組合員への出店の呼びかけ、イベントへの出演依頼、当日ボランティアの募集をしました。まつりの周知のために組合員など内部向けにはニュースや機関紙「元気通信」での案内、ホームページの活用、配送トラックや店舗・事務所等へのポスター掲示、チラシ配布などを行いました。外部に向けては、公共掲示板へのポスター掲示、新聞折込チラシの配布、当日はラジオで生中継するなど、多彩に広報活動をしました。屋外での開催に天候が心配されたものの、当日は素

晴らしい秋晴れの下、約35000人の来場者を迎えた大盛況でした。スタッフのおそろいの青とオレンジのTシャツが青空に映えていました。グリーンコープへの即日加入は16人、後日説明希望は95人でした。まつりからグリーンコープの元気な輪がまた大きくなりました。



みどりちゃんといはポーズ!

600席が参加者で埋めつくされた

投稿募集中

- 思いがけない家族のひと言 「ひと言」で思わず笑ってしまった、勇気づけられたりしたエピソードを紹介してください
- とっておきの一枚 楽しかった家族旅行の思い出や、大切な家族の一員でもあるペットの写真にコメントを添えて
- 私の好きな花 好きな花にまつわるエピソードを紹介してください

● 400字程度 ● 毎月末
● 住所・氏名・年齢・TEL・所属協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
● 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8-36博多ビル7F グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN) 「共生の時代」編集部 宛 FAX 092-481-7876 Eメール rikoho@greencoop.or.jp



言・い・た・い

投稿欄

「あーっ……またケンカ……」
もう怒る気もなくそのまま2人のケンカを見ていました。5分ほど口ケンカが続いた後、娘は最後の手段だったのでしょう「あやちゃん(自分のこと)、カゼひいて熱があるんやね」と反撃!息子が「じゃあ何度熱あるとっ」と聞くと、「うーんだいたい33℃か34

北九州市 竹下 千鶴(38歳)

熱があるの

うちの小5の息子と小1の娘はいつもケンカばかり。ある日、いつものようにケンカをしていました。「あーっ……またケンカ……」もう怒る気もなくそのまま2人のケンカを見ていました。5分ほど口ケンカが続いた後、娘は最後の手段だったのでしょう「あやちゃん(自分のこと)、カゼひいて熱があるんやね」と反撃!息子が「じゃあ何度熱あるとっ」と聞くと、「うーんだいたい33℃か34



No.5

放射線もいろいろ

放射線を出す物質を「放射性物質」、放射線を出す性質のことを「放射能」と呼びますが、一般には放射性物質のことが「放射能」と呼ばれています。放射線には紙一枚でとどまるアルファ線、金属や板を通り抜けられないベータ線、厚い鉄板やコンクリート、鉛でやっと遮蔽できるガンマ線、厚い鉄板も通り抜ける中性子線などの種類があります。放射線は生き物の体に当たると、その細胞を傷つけてしまいます。特に怖いのは、汚染された食べものや空気をとって体内に放射線を取り込んでしまうと放射能を排除することができないため、それによく似た成分の栄養素をためておくところによい取りこんでしまい、体内から被曝し続けることです。放射能は自然界にもあり、これも有害です。しかし自然界の放射能と比べて、原発などで生まれる人工放射能の中には体の中にたまりやすいものも多くあり、それだけ危険性が高いといえます。

※参考文献：新版原発を考える50話(西尾漢著・岩波書店) グリーンコープ共同体組織委員会

いま地域を考える

No.185

難病と闘う患者や家族にとどけ、癒しのメロディ

「日本ALS協会広島県支部（以下「ALS協会広島」）」は、患者や家族を励ますと、病院や患者の自宅へ音楽家に出向いてもらい、コンサートを開催している。この会でボランティアをしている浜岡和子さん（グリーンコープ生協ひろしま組合員）他会員に話を聞いた。



右端が浜岡さん。後列右から4番目が西さん。中列右から2番目が鈴木さん、後列左端が津田さん。2006年11月、東広島医療センターでの出張コンサートにて

出張コンサート 命かがやき隊 —日本ALS協会広島県支部—

2005年10月、全国組織のALS協会に加盟、「日本ALS協会広島県支部」となり再スタートした。現在患者やその家族、ボランティアなど113人が会員として活動している。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）は10万人に5人位が発症すると言われる難病だ。症状の現れ方はまちまちだが、進行すると手足の麻痺や言語障害や呼吸障害が起り、人工呼吸器を装着しないと命にかかわる状態となる。

患者や家族の交流や情報交換を目的として、1999年、「ALS協会広島」の前身である「広島ALS友の会」が発足した。病気を告知され、生きる希望を失いかけた患者や家族はこの会で、同じ悩みをもつ仲間に出会い相談相手をもつことで、心の荷を下ろし、前向きになることができたという。

難病の苦しみと生きる喜びを分かちあう



鈴木さんの枕元で演奏する津田さん

「明日からまた頑張れる力を与えてくれる音楽」
「ALS協会広島」の定例

出張コンサートのはじまりは、2005年5月自宅で寝たきりだった故鈴木喜久正さん（2006年1月永眠）の枕元でのことだった。音楽好きであった鈴木さんのために、会の活動に賛同した広島交響楽団の津田芳樹さんが、枕元でバイオリンやシンセサイザーを演奏した。会員も多数参加し、鈴木さんの妻が手料理でもてなすホームパーティーしながらの演奏会で、鈴木さんをはじめみんなが感激し、癒されたという。

これをきっかけに、さまざまな方面の音楽家たちを招いての演奏会を開催するようになった。出演する演奏家は、津田さんをはじめめざましくお礼と交通費だけでもかかわらず快く引き受けてくれる人たちばかりだ。ALSに理解の深い病院でも開催し、多くの患者が聴衆として集まった。そんな時、グリーンコープに福祉活動組合員基金があることを知り申請した。コンサート活動のために1年目は6万円、2年目からは10万円の助成を毎年受けている。

これはきつかけに、さまざまな方面の音楽家たちを招いての演奏会を開催するようになった。出演する演奏家は、津田さんをはじめめざましくお礼と交通費だけでもかかわらず快く引き受けてくれる人たちばかりだ。ALSに理解の深い病院でも開催し、多くの患者が聴衆として集まった。そんな時、グリーンコープに福祉活動組合員基金があることを知り申請した。コンサート活動のために1年目は6万円、2年目からは10万円の助成を毎年受けている。

出張コンサートのはじまりは、2005年5月自宅で寝たきりだった故鈴木喜久正さん（2006年1月永眠）の枕元でのことだった。音楽好きであった鈴木さんのために、会の活動に賛同した広島交響楽団の津田芳樹さんが、枕元でバイオリンやシンセサイザーを演奏した。会員も多数参加し、鈴木さんの妻が手料理でもてなすホームパーティーしながらの演奏会で、鈴木さんをはじめみんなが感激し、癒されたという。

枕元での生演奏

「あれまでの恩を返したい」
ALS協会広島を支えているのは、患者本人や家族の

不安と闘っている患者や、つきつかりの介護で疲労している家族は、音楽療法の効果も改めて感じるといふ。演奏会後は「明日からまた頑張ろう」という気持ちになるんです」と笑顔になる。「コンサートが終わった後のみなさんの顔が晴れやかなんです」と、演奏会のコーディネートを担当する浜岡さんは言う。

病院での演奏会には、医療関係者も参加することがある。演奏会後の交流会で、まだまだ知られていないこの病気のことや、患者の気持ちへの理解を深めてもらうことができる。また、常に体の不自由さや不安と闘っている患者や、つきつかりの介護で疲労している家族は、音楽療法の効果も改めて感じるといふ。演奏会後は「明日からまた頑張ろう」という気持ちになるんです」と笑顔になる。「コンサートが終わった後のみなさんの顔が晴れやかなんです」と、演奏会のコーディネートを担当する浜岡さんは言う。

この病気で家族を失くした人が会に残って活動してもらえるように、私たちが道を作っておきたい。鈴木さんは「この会に助けてもらった分、何かで返さなきゃ」と現在グリーンコープの福祉ワーカーとしても働いている。また、積極的な行政への陳情活動や人を引きつけるパワーで、各地の「ALS協会支部」から講演の依頼も多数寄せられているという。

「この病気で家族を失くした人が会に残って活動してもらえるように、私たちが道を作っておきたい。鈴木さんは「この会に助けてもらった分、何かで返さなきゃ」と現在グリーンコープの福祉ワーカーとしても働いている。また、積極的な行政への陳情活動や人を引きつけるパワーで、各地の「ALS協会支部」から講演の依頼も多数寄せられているという。

患者が遺した歌を歌い継いでいきたい

「音楽の力が、生きる希望を捨てずに頑張っている患者や家族の励ましに少しでもなれば」。命かがやき隊は、これからもコンサート活動を通じて、患者らの癒しと共に、ALSへの理解を呼びかけていく。

コンサート最後の、必ず演奏される曲がある。故鈴木さんが病気の告知後間もなく作詞作曲した「いととき人よ」である。津田さんは鈴木さんの枕元でこの曲をバイオリンで演奏した。

「この病気で家族を失くした人が会に残って活動してもらえるように、私たちが道を作っておきたい。鈴木さんは「この会に助けてもらった分、何かで返さなきゃ」と現在グリーンコープの福祉ワーカーとしても働いている。また、積極的な行政への陳情活動や人を引きつけるパワーで、各地の「ALS協会支部」から講演の依頼も多数寄せられているという。

「この病気で家族を失くした人が会に残って活動してもらえるように、私たちが道を作っておきたい。鈴木さんは「この会に助けてもらった分、何かで返さなきゃ」と現在グリーンコープの福祉ワーカーとしても働いている。また、積極的な行政への陳情活動や人を引きつけるパワーで、各地の「ALS協会支部」から講演の依頼も多数寄せられているという。

「家族は介護で動けない。これまでお世話になった分、力になれたら」。西さんは夫が亡くなって5年たった今も、会の会計を担当し、協力を惜しまない。

頭張りや熱意もさることながら、遺族を中心とするボランティアの存在が大きい。前述の鈴木さんの妻・鈴木加代子さん、西隆子さんは、患者であった夫が亡くなった後も会を支え続けている。



2007年6月、広島西医療センターでの出張コンサートの模様

なぜ食品の放射能汚染を測定するの？

1986年に起きたチェルノブイリ原発事故以後放射能による食品汚染が深刻な問題になりました。グリーンコープは1989年から取扱商品の放射能測定年間計画を立て、検査結果を本紙で公開してきました。近年、測定値が問題になるような事例はほとんどありませんが、原発の事故や故障、不祥事は頻りに起こっていることから、検査を継続しています。

放射能汚染測定は、なぜセシウム137と134が対象なの？

セシウムには137と134があり、半減期（放射能の量が半分になる時期）がそれぞれ30年と2年です。もし過去の大気圏内核実験などによる地球規模での汚染が原因であれば半減期の短いセシウム134は検出されません。セシウム137と134の両方が検出されたら、汚染原因は原子力発電所の事故などの可能性があります。

リユース リサイクル データ

回収本数 971,253本 回収率 99.7% (8月19日～9月15日回収分) 牛乳びん	回収本数 77,838本 回収率 22.6% リユースびん <small>※工場の移転に伴い、回収された本数が正確にカウントされていません。</small>	回収重量 13,242kg 回収率 61.1% トレー	回収重量 34,110kg 回収率 101.4% モールドバック
--	---	---	--

2007年10月の組合員数 380838人

(10/20現在)

グリーンコープ生協ふくおか	グリーンコープ生協おいた
グリーンコープ生協さが	グリーンコープ生協みやざき
グリーンコープ生協（長崎）	
グリーンコープ生協くまもと	
グリーンコープかごしま生協	
	グリーンコープ生協おおさか
	グリーンコープ生協ひょうご
	グリーンコープ生協おかやま
	グリーンコープ生協とっとり
	グリーンコープ生協（島根）
	グリーンコープ生協ひろしま
	グリーンコープやまぐち生協